

令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	135	60	54	6.5	13.8
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	130	59.7	42.6	45.0	41.1	46.3	10.2	8.4	12.4	5.7	4.3
	大阪市	11024	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9	7.3	5.8	10.7	4.1	3.1
9月10日	大阪府	54791	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.1	3.4
2 年	学校	108	53.8	43.4	56.3	50.1	54.9	14.2	9.6	10.2	7.1	5.2
	大阪市	14769	57.5	59.0	57.8	51.2	53.9	12.1	9.4	5.5	6.4	5.6
	大阪府	58824	58.8	60.1	58.5	52.2	54.4	11.9	9.4	5.6	6.4	6.0
1 年	学校	143	53.1	50.7	58.9	55.8	59.5	14.4	3.3	6.4	4.8	6.6
	大阪市	15,027	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
	大阪府	59,730	62.2	—	58.5	—	63.5	9.7	—	6.2	—	4.7

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	123	92.4	100.9	116.8	81.1
	大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	118	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	27.40	24.27	38.45	46.99	72.50		8.20	194.38	18.97	36.56
	大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	78.32	416.03	8.08	195.40	20.03	40.71
	全 国	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88	406.38	8.01	196.36	20.31	41.18
2 年 女 子	学校	23.49	21.00	41.36	45.86	52.30		8.88	178.95	11.91	47.98
	大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	53.61	306.26	9.01	167.76	12.62	48.06
	全 国	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24	297.62	8.88	168.15	12.72	48.56

令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

〈国語〉

「話すこと」、「聞くこと」の領域の伝統的な言語文化との特質に関する問題では、大阪府の平均正答率を上回っていた。一方で、「書くこと」、「読むこと」の領域では、大阪府及び全国の平均正答率を大きく下回っている問題が多かった。特に、自分の考えを持ち、考えをまとめる記述式の問題の無回答率が非常に高かったことが、大阪府、全国の平均を下回った原因の一つと考える。言語についての知識・理解・技能の能力は大阪府の平均正答率と大差はないが、その知識や技能を「書く」、「読む」の力につなげていくことが課題である。

〈数学〉

「数と式」の領域や選択式や短答式の問題では、大阪府及び全国の平均正答率を上回っており無回答率も低く、普段の小テストや問題演習等の成果が表れている。また、数量や図形などについての知識・理解の問題でも、大阪府または全国の平均正答率を上回っており、ICTを効果的に用いて指導した領域に一定数の成果があった。しかし、記述式の数学的な表現や説明を用いて解答する問題では、大阪府及び全国の平均正答率を大幅に下回っていることが課題である。

【今後に向けて】

〈国語〉

記述式の「書く」力に課題があり無回答率が高いという結果から、授業で自分の意見や考えを短文形式で書いてまとめ、班活動等で互いの考えや意見を共有し合う言語活動を系統的に適宜取り入れていく。また、他者の考えや意見を参考にし、自分の意見や考えをまとまりのある文章で表現できる力をつけていく。

〈数学〉

全領域でICTを効果的に活用し説明時間を短縮することで、数学的な技能や知識・理解の習得のための演習時間をさらに充実させる。また、数学的な表現において課題があったことから、事象について数学的に考察する場面では、ペアやグループで筋道を立てて考え説明したり、発展的に考察する協働学習の時間を確保していく。

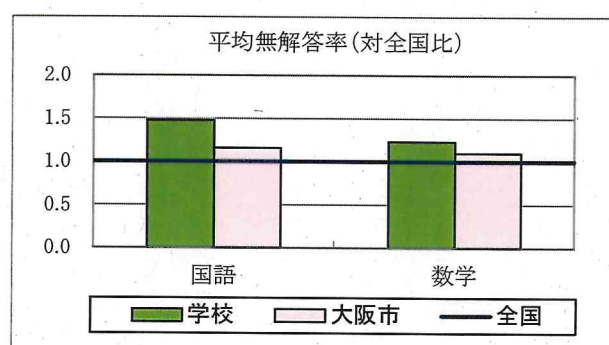
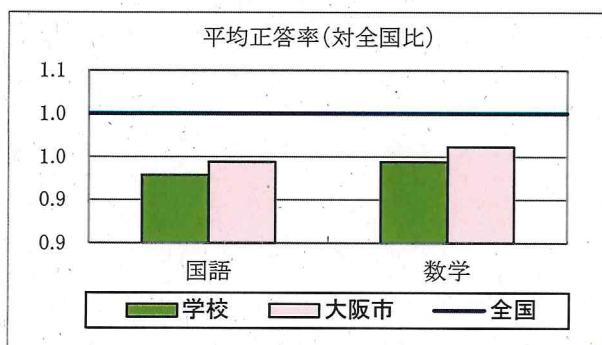
令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

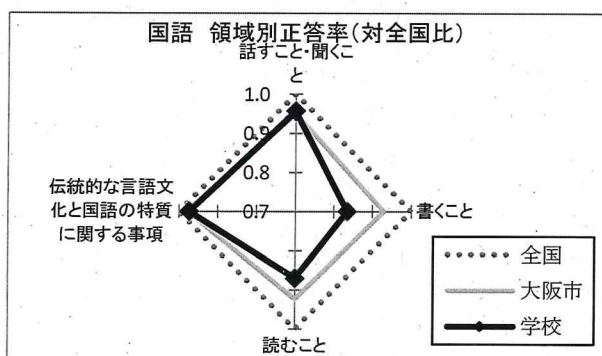
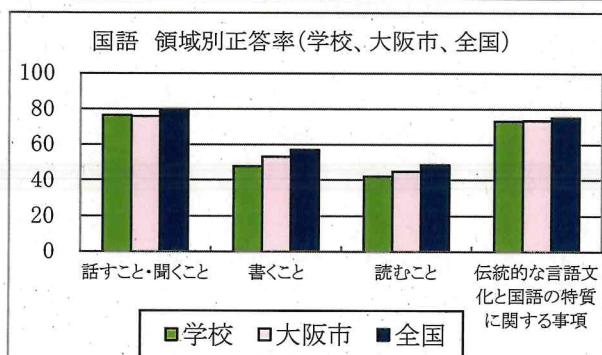
	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	60	54
大阪市	61	55
全国	64.6	57.2

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.5	13.8
大阪市	5.1	12.3
全国	4.4	11.2



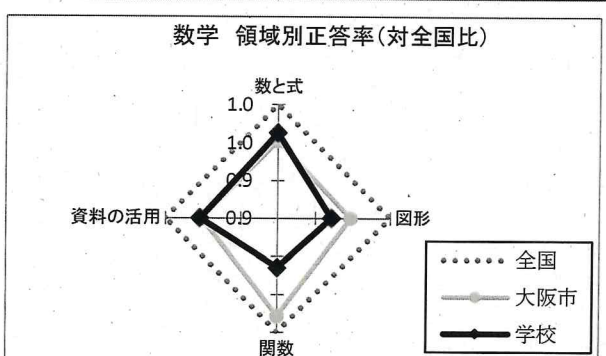
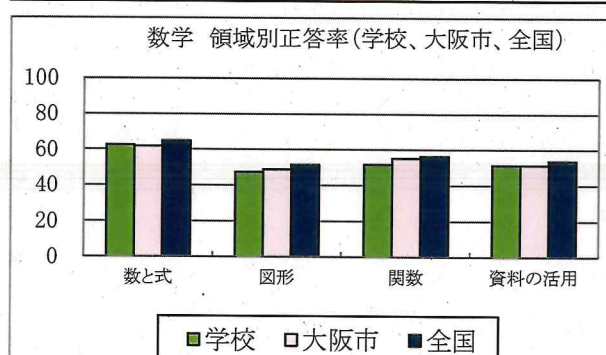
【 国 語 】

学習指導要領の 領域等	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	3	76.3	75.8	79.8
書くこと	3	47.7	53.1	57.1
読むこと	4	42.2	44.8	48.5
伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	4	73.1	73.4	75.1



【 数 学 】

学習指導要領の 領域等	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
数と式	5	62.5	61.8	64.9
図形	4	47.4	48.7	51.4
関数	3	51.6	55.2	56.4
資料の活用	4	51.3	51.2	53.8



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

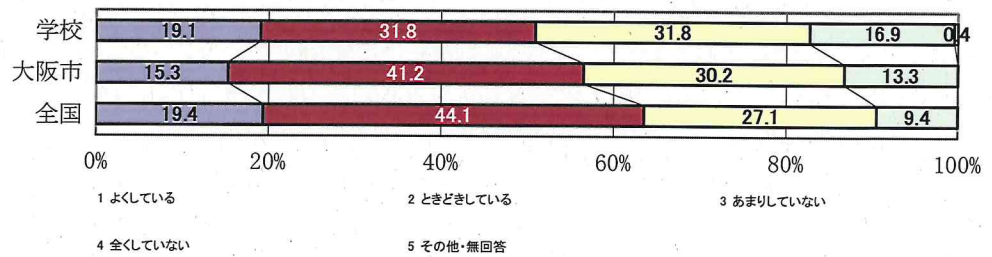
生徒質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

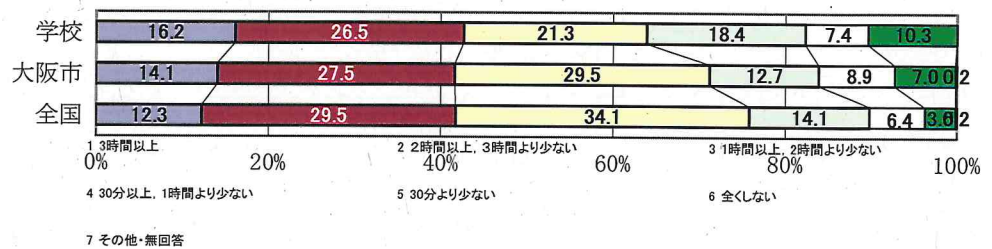
17

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます。)



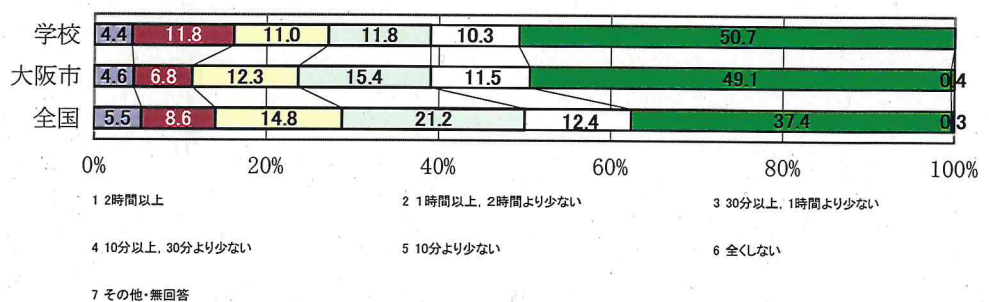
18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)



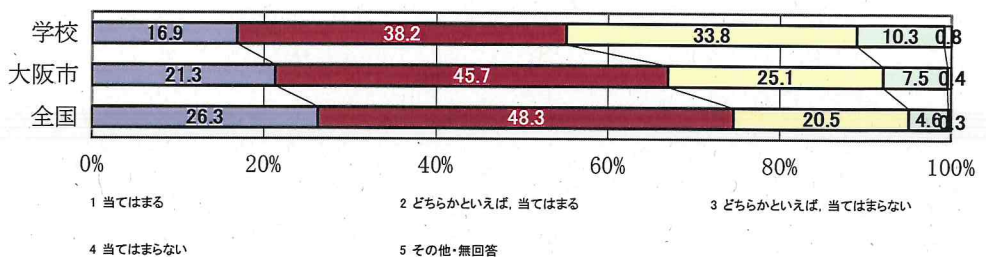
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



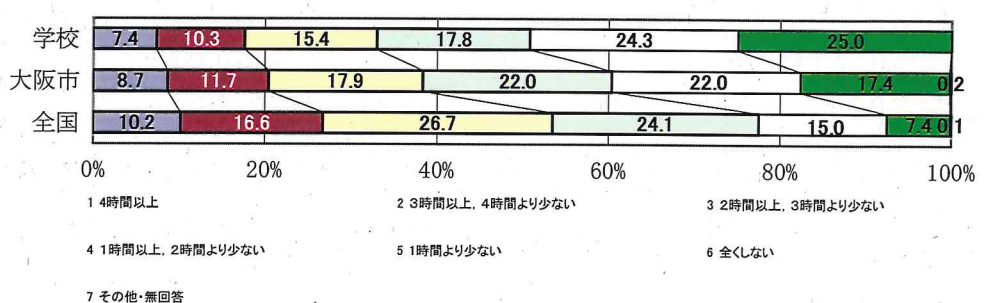
38

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

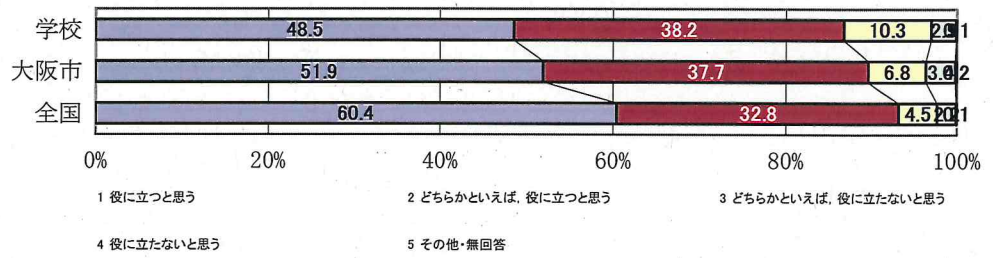
生徒質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

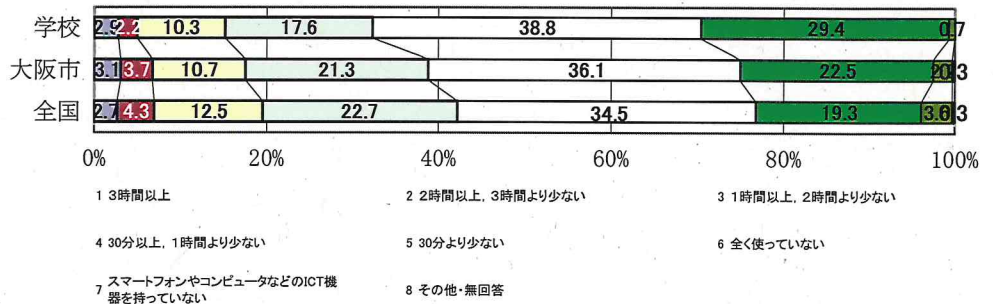
28

学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



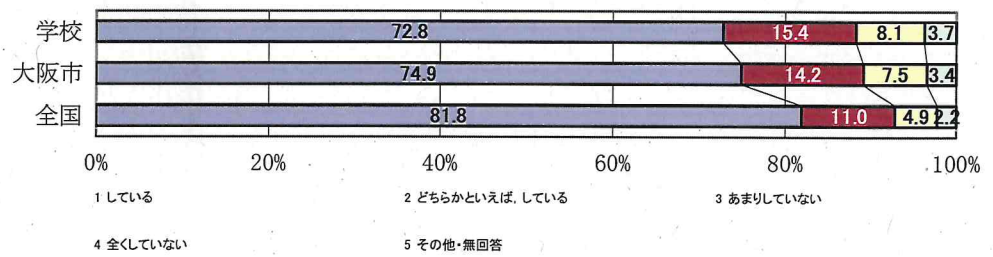
29

普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか



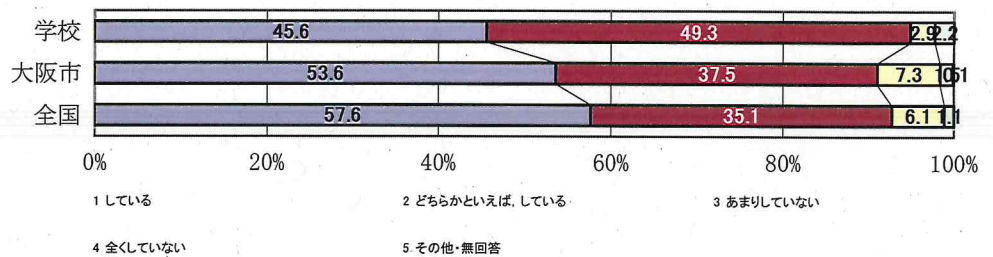
1

朝食を毎日食べていますか



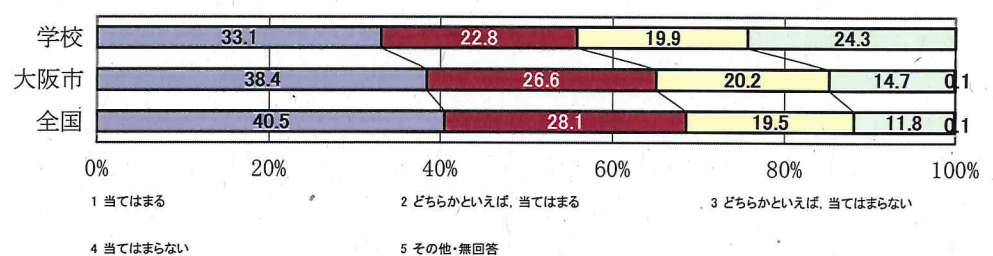
3

毎日, 同じくらいの時刻に起きていますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学校1年生チャレンジテスト(プラス)結果

【成果と課題】

〈国語〉

いずれの問題形式や観点別問題においてすべて府の平均正答率を下回っている。「思考・判断・表現」の力が身につけていない生徒が多いことがわかった。

〈社会〉

地理領域の日本の位置を経度で把握する問題や世界地図の特色についての問題に対する平均正答率が特に低い。歴史の古墳時代までは学習内容の定着が見て取れるが、飛鳥から平安時代の史実についての理解が低いことがわかった。

〈数学〉

「数と式」分野の平均正答率が高く、授業で計算問題の小テストや単元末テストを継続して行なった成果が表れている。短答式や選択式問題の平均正答率が高いが、「思考・判断・表現」の記述式の問題に課題があることがわかった。

〈理科〉

解答形式が記述の区分に関して大阪市の平均を大きく下回り、基礎基本の定着と知識の活用及び表現する力に課題がある。また、解答形式を問わず、「思考・判断・表現」を問う問題の無回答率が高いことがわかった。

〈英語〉

個々の問題を見ると、府の平均を上回るものもあるが、平均正答率は府を下回る結果となった。授業にリスニングを多く取り入れているが、成果として表れておらず、記述式の正答率も低い結果となった。

【今後に向けて】

〈国語〉

基礎基本の定着を図るとともに、正答率中位者の力を伸ばすための授業改善を行う。記述式の問題の意図を読み取り、自分のことばで説明したりまとめる力をつけるために、パターン化した課題を適宜授業に取り入れ、「思考・判断・表現」の力を伸ばしたい。

〈社会〉

地図や表などの資料を活用し表現する力の向上を目指し、調べ学習や発表する機会を増やす。また、課題について話し合ったり、評価する活動などの対話的な学習活動を通して「思考・判断・表現」の力をつける。

〈数学〉

発展的な問題や記述式問題にも対応できる力をつけるために、証明問題等の記述式のレポート課題を工夫し、教科書の学習内容を広げ、深める指導を実践する。

〈理科〉

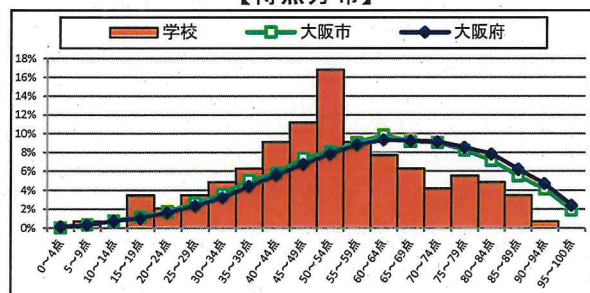
ICT機器を活用し視覚、聴覚にうったえる工夫や、体験型、実験型の知識の活用を柱にした授業を実践する。

〈英語〉

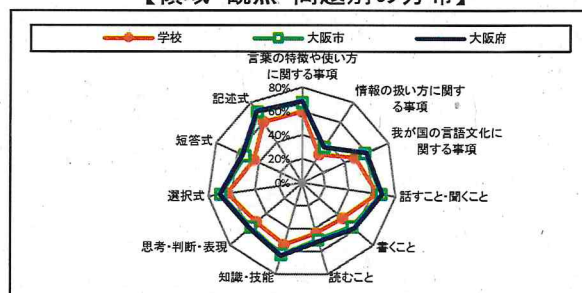
基礎基本の定着を目指し、「読む」、「書く」、「聞く」の全てにおいて教材を工夫する。特に「読む」指導の時間を多くとり、読解力をつける教材や指導法を工夫する。

【国語】

【得点分布】

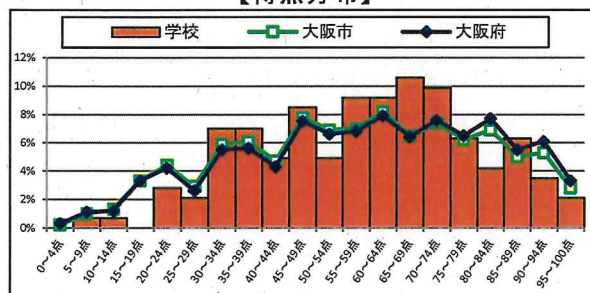


【領域・観点・問題別の分布】

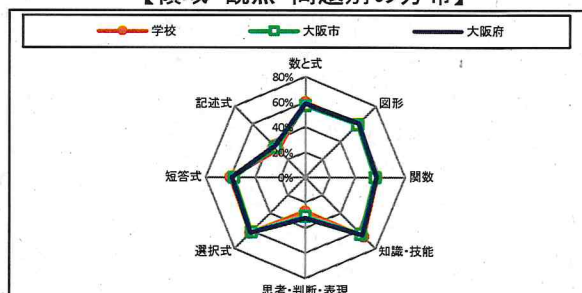


【数学】

【得点分布】

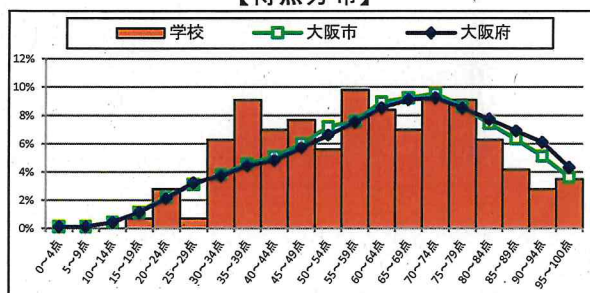


【領域・観点・問題別の分布】

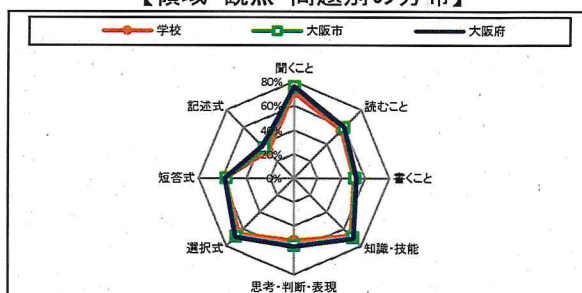


【英語】

【得点分布】

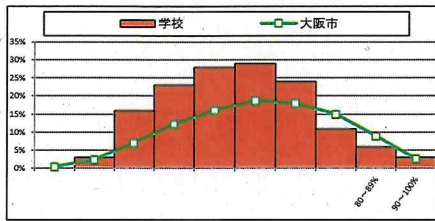


【領域・観点・問題別の分布】

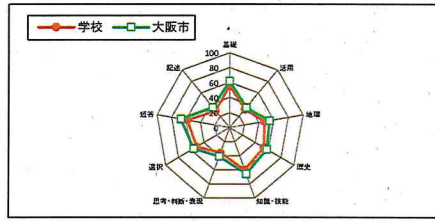


【 社 会 】

【正答率分布】

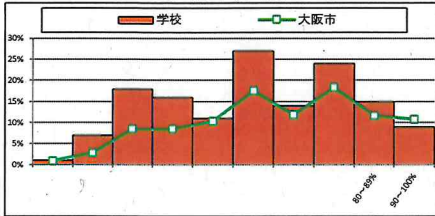


【領域・観点・問題別の分布】

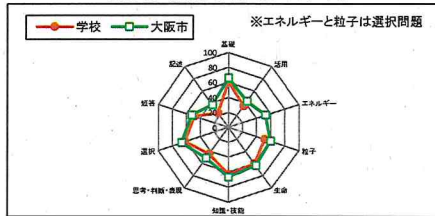


【 理 科 】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学校2年生チャレンジテスト結果

【成果と課題】

〈国語〉

資料を正確に読み取って、その内容を表現したり、文章の内容を必要に応じて書き直すことを苦手とする生徒が多いことがわかった。漢字や古文についての知識、基礎的な読解問題の平均正答率は比較的高く、普段の授業での問題演習の成果が表れている。

〈社会〉

2つの領域において、選択形式の回答の正答率は比較的高いが、短答式、記述式の解答形式では正答率が低く、無回答率も高いことがわかった。

〈数学〉

同一母集団における府平均との差は小さくなっており、全体的に学力の向上が見て取れる。経年度で見ると、大阪府の平均正答率を上回る生徒は昨年度より増えている。しかし、すべての項目において府の平均正答率を4ポイント下回っている。文章から読み取った情報を数学的知識と結び付ける力が弱いことがわかった。

〈理科〉

計算や記述式の問題について無回答率が高く、自分の考えをまとめて表現する学習や課題に対してあきらめず取り組む姿勢に課題がある。

〈英語〉

3つの領域において府の平均を1～3ポイント下回っている。選択式、短答式の解答形式での無回答率は低いですが、与えられた情報に基づいて指示された英文を書いたり、会話の流れを読み取り適切に応答する問題の無回答率が高く、場面に応じて表現する力が定着していないことがわかった。

【今後に向けて】

〈国語〉

資料を用いた発表や討議を行い、資料や文の意図を読み取り活用する力を伸ばし、指導の中でも発問を工夫し、対話的な授業展開を目指す。また、初見の文章を読み、その内容について小論文を書くなどの表現力をつける演習を積み重ねる。

〈社会〉

「思考・判断・表現」の力をつけるために、図や表から読み取れる情報をもとに、特徴について考察し、自分の考えをまとめ説明する活動を増やす。

〈数学〉

問題から趣旨を読み取り、数学的知識で解決法を見つけ出す力をつけるために、読解力の必要な演習問題や実験、身近な事象を使用した問題演習を増やす。

〈理科〉

小テストの回数を増やし学習の振り返りを適宜行い、知識の確実な習得を目指す。また、基礎知識の活用や表現力の向上のために、調べ学習や発表する機会をつくり表現力をつける。

〈英語〉

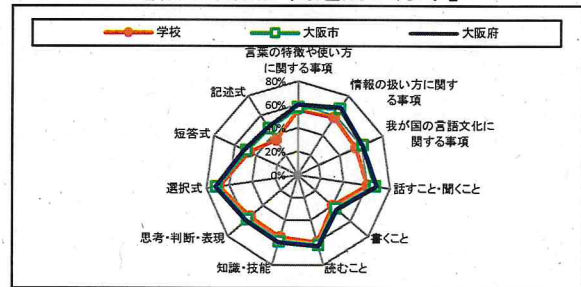
語いや基本的な文法事項を用いて場面に応じて「書く」、「話す」力を伸ばすために、短文を組み合わせてまとまりのある英文を考える活動を増やす。また、英語でのやり取りを増やすことで、リスニングの力や即興でやり取りできる力の向上を図る。

【国語】

【得点分布】

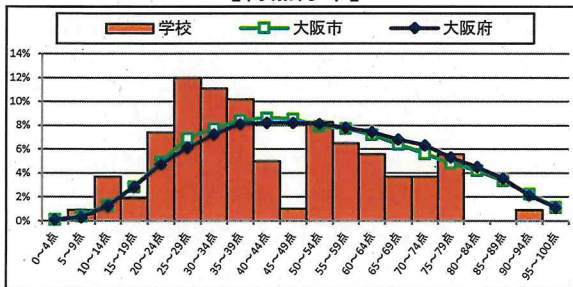


【領域・観点・問題別の分布】

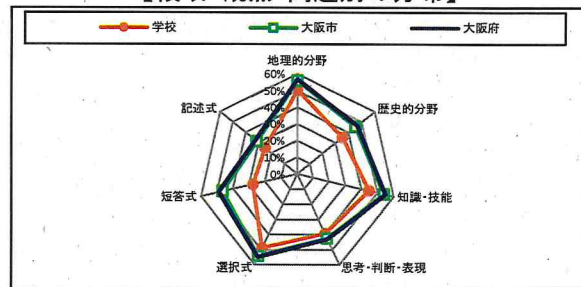


【社会A】

【得点分布】

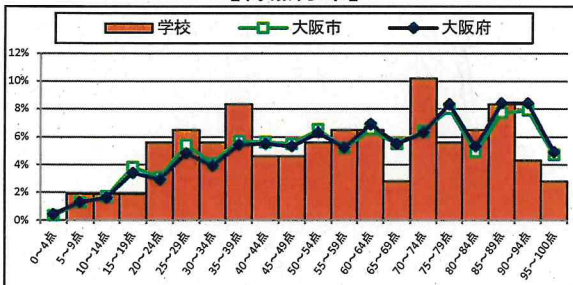


【領域・観点・問題別の分布】

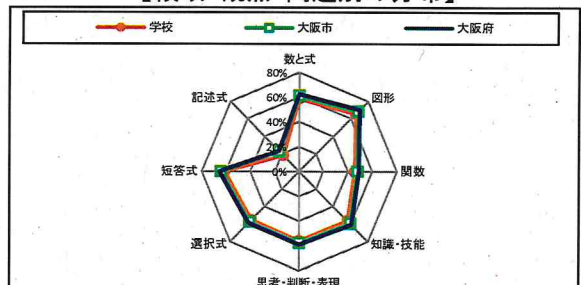


【数学】

【得点分布】

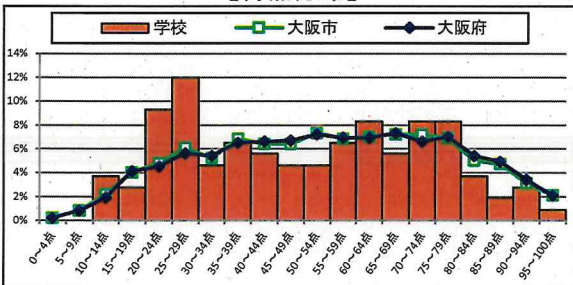


【領域・観点・問題別の分布】

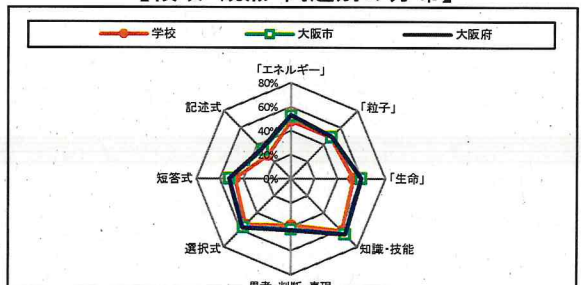


【理科A】

【得点分布】

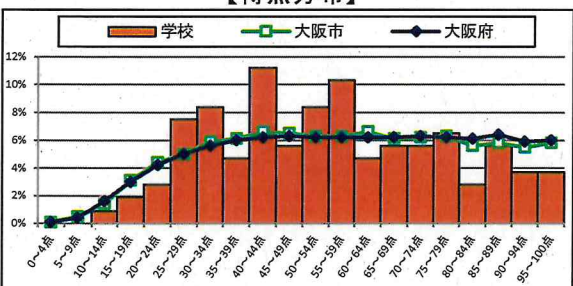


【領域・観点・問題別の分布】

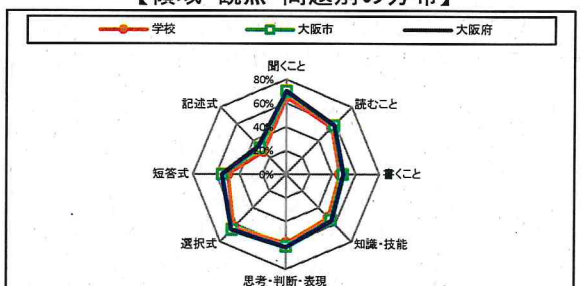


【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学校3年生チャレンジテスト結果

【成果と課題】

〈国語〉

文法に関する知識を問う問題では、授業や課題での反復練習の成果が出ていた。しかし、記述式の問題を苦手としている生徒が大阪府の平均値に比べ高く、その他の問題についても問いに対する適切な解答の仕方に慣れてない。また、基本的な漢字の読み書きが定着していない生徒も多い。

〈社会〉

地理的分野の都道府県に関する問題や歴史的分野の人物に係る問題は比較的正答率が高い。

〈数学〉

昨年度より府平均との差が小さくなっており、全体的に学力の向上が見て取れる。しかし、正答率が府平均よりも5ポイント下回っている問題もある。1つ1つの知識としては定着しているが、習得した知識を複合させた問題の正答率が低い。また、問いの内容を正しく理解して答える問題では、基礎的な問題でも正答率が低く、文章の読解力が弱いことがわかった。

〈理科〉

短答式の正答率は大阪市の平均に近いが、記述式の問題に苦手意識を持っている生徒が多く、無回答率も高かった。

〈英語〉

普段の授業でリスニング教材を工夫している成果が見て取れた。対話文や長文と表やグラフの両方を読み解いて答える問題の正答率が低い。

【今後に向けて】

〈国語〉

記述式の問題を中心に問題演習を増やし、答えの書き方に慣れる必要がある。また、授業中の発問を工夫し、自分のことばで説明したり、自分の考えをまとめて話す力を伸ばしていく。

〈社会〉

授業でICT機器を活用して資料等をたくさん提示し、資料や文章を読み解いて判断する力をつけていく。

〈数学〉

問題の趣旨を正しく理解し、答える力をつけるために、読解力の必要な演習問題を増やす。

〈理科〉

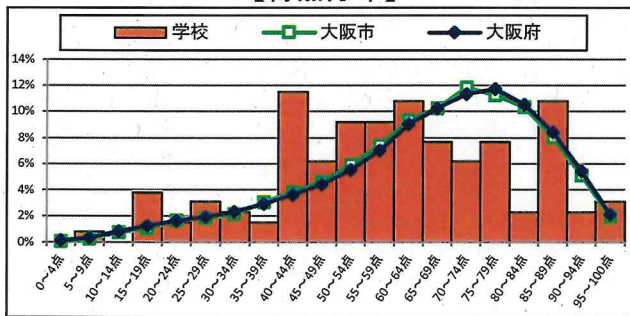
実験結果から得たデータから規則性を見出すための発問を工夫し、資料を理解する力をつけていく。

〈英語〉

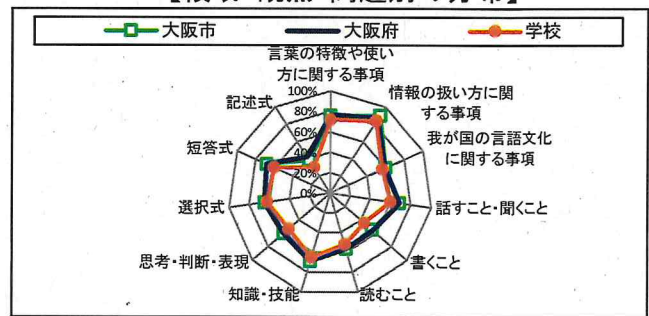
「読む」力ををつけていくために、教材を工夫し多読の時間を増やす。

【国語】

【得点分布】

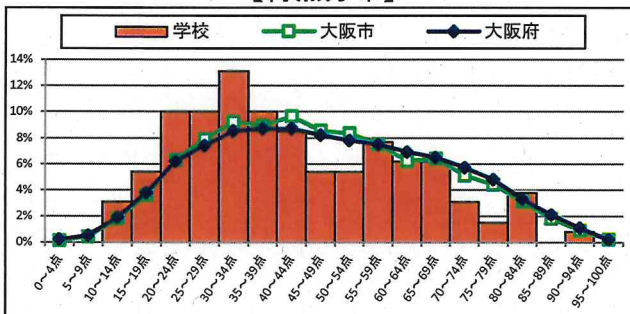


【領域・観点・問題別の分布】

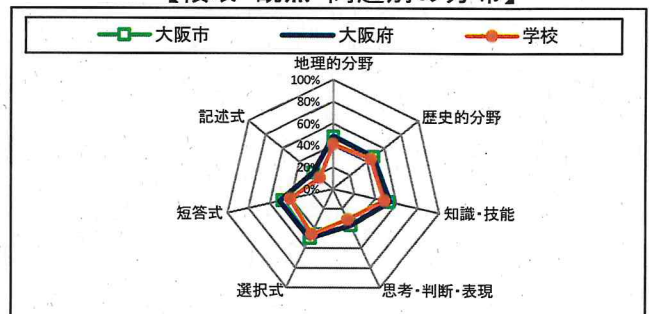


【社会】

【得点分布】

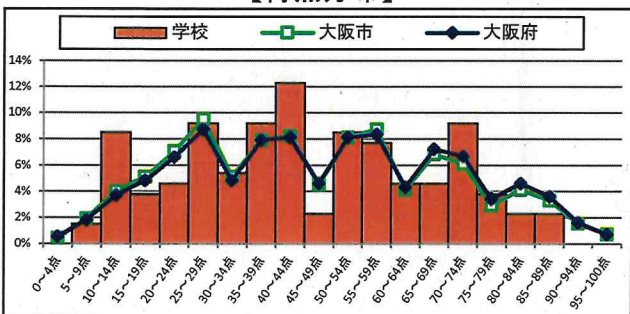


【領域・観点・問題別の分布】

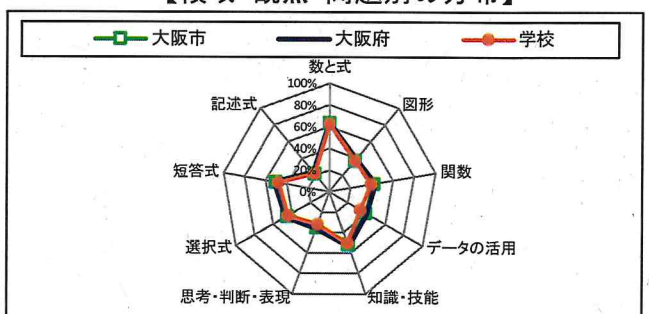


【数学】

【得点分布】

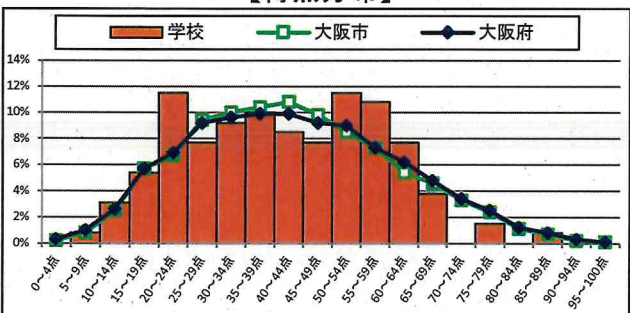


【領域・観点・問題別の分布】

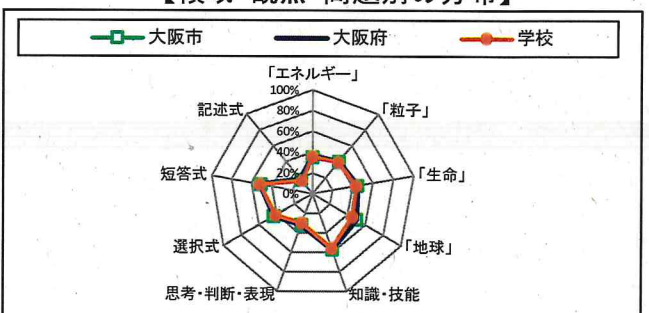


【理科C】

【得点分布】

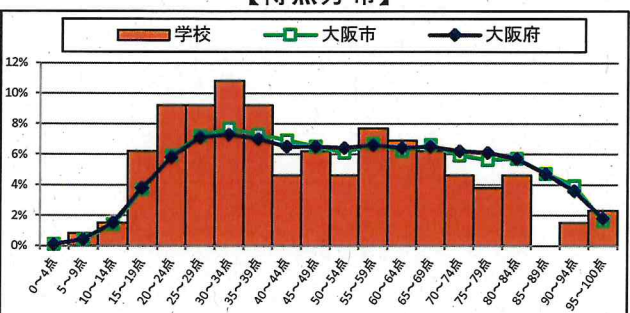


【領域・観点・問題別の分布】

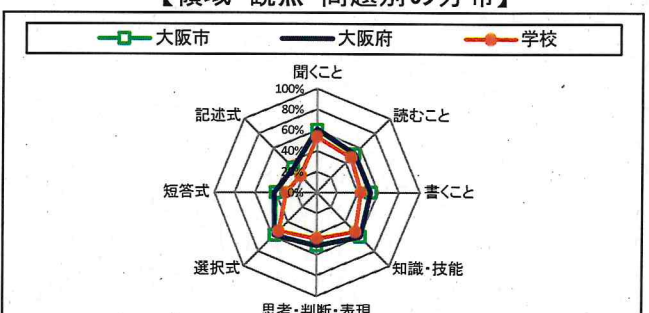


【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】



令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)3年結果

【成果と課題】

4技能全てにおいて、大阪市の平均を下回っている。総合点では大阪市の平均が444.4点のところ、本校においては392.8点で、51.6点下回る結果となった。特に「書く」ことにおいては大阪市の平均を23.5点、「話す」ことにおいては11.9点下回っており、知識・技能の習得の過程と知識・技能を活用し表現する力に課題がある。

〈読む〉

図や表の内容と短文で書かれた英文の内容について、図や表の情報を捉えて概要を理解する問題は比較的正答率が高かった。しかし、単文の中で文脈を理解し、文法的に適切な語を選択する問題の正答率が低く、基本的な文法事項や語彙が定着していないことがわかった。また、まとまった量の英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について答える問題では、英文を理解し必要な情報を読み取る力にも課題があることがわかった。

〈聞く〉

他の技能と比較すると大阪市の平均と大差はないが、やや長めの英文を聞いて全体の内容をとらえる力が弱い。コミュニケーション場面の状況や情報を整理する力をつける必要がある。

〈書く〉

いずれの問題も無回答率が30%を超えており、「書く」ことに苦手意識を持っている生徒が多い。短文の英作文の指導だけでなく、与えられたテーマについて、自分の意見と理由を文の構成を考え、つながりのある英文で書く力をつける必要がある。

〈話す〉

なじみのある応答はできるが、即興で答える力が乏しく、7割の生徒が簡単な語句や定型表現を使って答えることができていない。また、応答の正確さについては、語彙や文法が定着していず出題意図から外れていたたり、英語として通じない応答が多いことがわかった。

【今後に向けての授業・指導改善】

・文法、語彙、定型表現等の基礎基本の定着のため、「知識・技能」についてラウンド形式で指導する。

・WPMの語数が極端に少ないため、教科書以外のまとまりのある英文を読む課題を設定し、未習語があっても読んで理解する力をつける。

・指導者から生徒、生徒間の典型的な英語のやり取りにとどまらず、即興で応答したり、インタラクションを入れながら話す場面や活動を増やす。

令和3年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査2年 結果

【成果と課題】

男子:体格は全国や大阪市の平均と比較し大差はないが、いずれの項目も大阪市の平均を下回っていた。また、質問紙の回答から体育の授業で達成感や楽しさを感じている生徒が少ないこともわかった。授業時間内に生徒個々の運動時間を十分に確保し、運動能力の向上を目指していく。

女子:体力合計点は、大阪市とは0.1点の差、全国と比較すると0.6点差下回った。しかし、握力と50m走と立ち幅とびは大阪市の平均を上回ることができた。特に50m走については、授業で正しい走り方について指導し、その成果が表れている。今後も引き続きこのような指導を継続して行い、さらなる体力・運動能力の向上を図る。また、生徒同士の協働を通して、コミュニケーション能力を高め、運動することについての意欲向上に繋げていく。

【今後に向けての授業・指導改善】

男子:授業の最初にめあてを明確に伝え、生徒自身が目標を設定し、意欲を持って授業に参加する姿勢を育む。また、授業の最後に、自身の目標を達成できたかどうかの振り返りの時間を設ける。授業中は指示や説明を端的に伝え、集散の回数を減らすなどの工夫をすることで、運動時間の確保に努める。長座体前屈の平均値が全国平均を大きく下回っており、柔軟性が低いことがわかったので、ダイナミックストレッチを積極的に授業に取り入れ柔軟性を高める。

女子:アンケート結果からも、コロナ禍で運動する時間が減っていることがわかる。週3回の授業では、からだづくりのために積み重ねられる準備運動を工夫する。また、中学校入学前から「体を動かすことが好き」「友人に褒められて嬉しい」が全国平均よりも下回っていることから、体を動かすことが「好き」と回答する生徒を増やすため、生徒間の対話を深め、協働を促す授業づくりを推進する。「先生に褒められて嬉しい」の回答は全国を大きく上回っているが、生徒同士で認め合えることが何よりも大切だと考えている。心身ともに健康で、生涯にわたって運動に慣れ親しむ生徒の育成に努める。